

乳癌患者に対する遺伝カウンセリング加算算定率

● 説明

遺伝性乳癌卵巣癌症候群は生殖細胞系列におけるBRCA1/2遺伝子の病的変異が原因で高率に乳癌、卵巣癌などを発症するがんの易罹患性症候群です。遺伝性腫瘍の中でも患者数が多いことと、サーベイランスやリスク低減手術などの対策が可能であることが特徴です。そのため年齢、家族歴、癌のサブタイプなど一定の条件を満たす乳癌患者には遺伝カウンセリングを行った後に、遺伝学的検査を勧めています。

遺伝子診療部を有する当院においては適切な遺伝情報提供や対策が行えることから、遺伝カウンセリング数が当科の診療の質の指標になると考えます。

● 計算式

$$QI = \frac{\text{遺伝カウンセリング加算の件数}}{\text{本院及びICCRCでの乳癌手術件数}} \times 100$$

● 目標

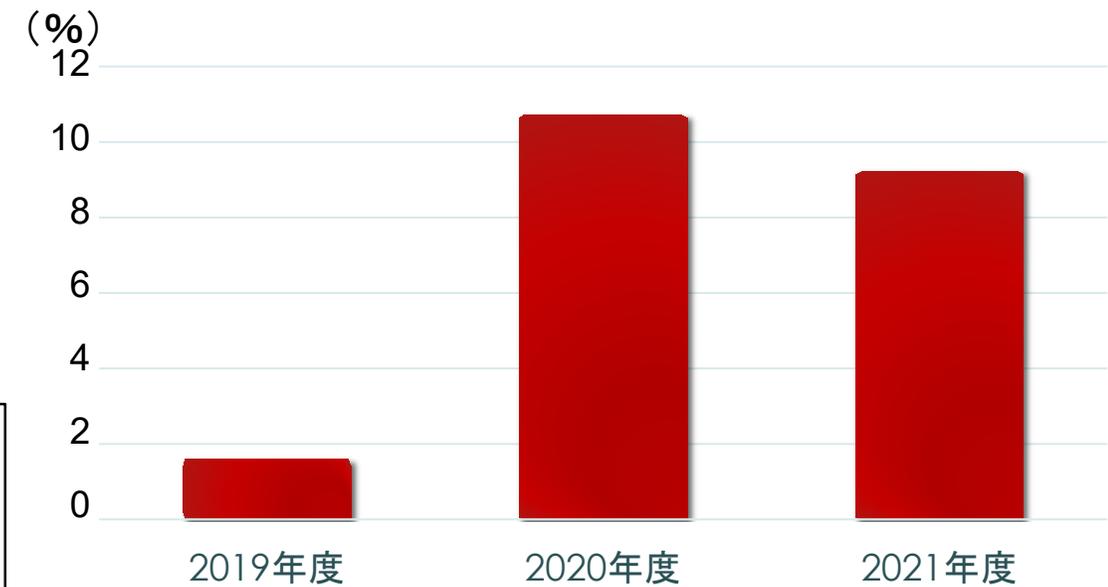
目標値を10%とします。日本人の乳癌患者において遺伝性乳癌卵巣癌症候群の割合は4~5%程度と報告されています。

Momozawa et al. Germline pathogenic variants of 11 breast cancer genes in 7051 Japanese patients and 11241 controls. Nat Mommun 2018

● 計画

初診時、乳癌診断確定時における家族歴の聴取、術前術後カンファレンスにおける対象患者のピックアップ

● 実績



● 評価

2020年4月より家族歴のある乳癌患者、45歳以下の乳癌、60歳以下のトリプルネガティブ乳癌においてBRCA1/2遺伝学的検査と遺伝カウンセリング加算が保険適応となりました。そのため医療費負担が軽減したことによって、2021年以降はカウンセリング件数の増加につながったと思われます。